

## 授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	情報処理概論 I (日商PC検定 文書作成3級)	
担当教員の実務経験	複数法人での新規企画への事務経験等	
対象学生	総合福祉学科 1年生	
授業時間数・単位数	35 コマ	2 単位
授業方法	講 義 [ ] ・ 演 習 [ ○ ] ・ 実 習 [ ]	
授業の概要	情報ネットワーク社会の急速な進展により、ワークスタイルが大きく変化する中、企業実務等における求められるビジネス文書の作成能力、およびネットワークの活用による事務能力等に関する基礎知識技術を習得する。	
授業の到達目標	日本商工会議所主催・日商PC検定 文書作成3級の取得	
成績評価方法と基準	出席15%、目標試験の合格80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習	初心者はタイピングのスピードをあげる。	
使用教科書・教材・参考書	FOM出版「よくわかるマスター 日商PC検定試験 文書作成3級 (Word2013対応)」 「よくわかるマスター 日商PC検定試験 知識科目公式問題集」	
授業上の注意点		
	授業計画 (内容)	コマ数
	1. 検定試験概要・必要データのダウンロード	1 コマ
	2. 文書の有用性・ビジネス文書の基本	1 コマ
	3. ビジネス文書の文章表現・誤解を招かない文章表現	1 コマ
	4. 文章表現の応用 (箇条書き、記号符号、表)	1 コマ
	5. 敬語の種類	1 コマ
	6. 電子メールの基本	1 コマ
	7. 図解・グラフの基本パターン	1 コマ
	8. 文書管理の基本	1 コマ
	9. [演習]文章の入力 (インデントの設定、タブの挿入、下線の設定、名前を付けて保存)	2 コマ
	10. [演習]表のあるビジネス文書 (列幅の変更、行・列の挿入、罫線の削除、セルの塗りつぶし)	2 コマ
	11. [演習]票のあるビジネス文書 (罫線の種類の変更、計算式の入力)	3 コマ
	12. [演習]図形のあるビジネス文書 (各丸四角形の作成、矢印の作成、テキストボックスの作成)	4 コマ
	13. [演習]第1回模擬問題	4 コマ
	14. [演習]第2回模擬問題	4 コマ
	15. [演習]第3回模擬問題	4 コマ
	16. 知識問題の学習 (共通分野問題)	2 コマ
	17. 知識問題の学習 (文書作成分野)	2 コマ
	合計	35コマ
	授業単位数	2

## 授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	情報処理概論Ⅱ（日商PC検定 データ活用3級）	
実務経験	複数法人での新規企画への事務経験等	
対象学生	総合福祉学科 1年生	
授業時間数・単位数	31 コマ	2 単位
授業方法	講 義 [     ] ・ 演 習 [ ○ ] ・ 実 習 [     ]	
授業の概要	情報ネットワーク社会の急速な進展により、ワークスタイルが大きく変化する中、企業実務等における求められる業務データの処理能力、およびネットワークの利活用による事務能力等に関する基礎知識技術を習得する。	
授業の到達目標	日本商工会議所主催・日商PC検定 データ活用3級の取得	
成績評価方法と基準	出席15%、目標試験の合格80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習	初心者はタイピングのスピードをあげる。	
使用教科書・教材・参考書	FOM出版「よくわかるマスター 日商PC検定試験 データ活用3級（Word2013対応）」 「よくわかるマスター 日商PC検定試験 知識科目公式問題集」	
授業上の注意点		
	授業計画（内容）	コマ数
	1. 検定試験概要・必要データのダウンロード	1 コマ
	2. 取引の仕組みと業務の流れ（見積書、発注書、請求書、領収書）	1 コマ
	3. 財務諸表（貸借対照表、損益計算書）	1 コマ
	4. 基本的な計算処理（四則演算、関数）	1 コマ
	5. 業務で使用する計算処理（単純集計、クロス集計）	1 コマ
	6. 業務データの分析	1 コマ
	7. [演習]表の作成（表示形式の設定、保存）	1 コマ
	8. [演習]データの集計（ピボットテーブル、データの並べ替え）	3 コマ
	9. [演習]データの集計（関数による集計）	2 コマ
	10. [演習]グラフの作成（凡例、軸ラベル、タイトルの入力）	2 コマ
	11. [演習]グラフの作成（複合グラフの作成）	2 コマ
	12. [演習]まとめ	2 コマ
	13. [演習]第1回模擬問題	3 コマ
	14. [演習]第2回模擬問題	3 コマ
	15. [演習]第3回模擬問題	3 コマ
	16. 知識問題の学習（共通分野問題）	1 コマ
	17. 知識問題の学習（データ活用分野）	2 コマ
	合計	30 コマ
	授業単位数	2

## 授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	日本語表現	
担当教員の実務経験	通所介護事業所勤務介護員経験	
対象学生	総合福祉学科 1年生	
授業時間数・単位数	15 コマ	1 単位
授業方法	講 義 [ ○ ] ・ 演 習 [     ] ・ 実 習 [     ]	
授業の概要	IT技術の進歩に伴い、パソコン等の利用による記録物管理等が行われるものの、基礎的基本的な表現技法等を行うことを基に、日本語表現を体系的に理解する。	
授業の到達目標	介護職員の業務に必要な書式等にあわせ「書く・話す・伝える」基礎的知識を習得する。	
成績評価方法と基準	出席15%、目標試験の合格80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習	次回の学習内容の予習を行うとともに、課題の作成を行う	
使用教科書・教材・参考書	石塚修他著「日本語表現&コミュニケーション」実教出版	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
1. 自己紹介（構造）		1コマ
2. 敬語・連絡メモ		1コマ
3. 介護保険制度で行われる記録物		1コマ
4. 漢字の用例、言い回し例		1コマ
5. 書いた文章の見直し、改まった表現		1コマ
6. 手紙文の基礎、メールでの留意点		1コマ
7. 説明の構造		1コマ
8. 資料の読み取り（表、図、グラフの情報）		1コマ
9. わかりやすく伝える		1コマ
10. 介護報酬請求の流れ		1コマ
12. レポートの書き方		1コマ
13. 履歴書の構造		1コマ
14. 社会福祉で使われる文章表現		1コマ
15. まとめ		1コマ
	合計	15コマ
	授業単位数	1

## 授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	介護職員資格講座（社会の理解）	
担当教員の実務経験	通所介護事業所勤務介護員経験	
対象学生	総合福祉学科 1年生	
授業時間数・単位数	30 / 240 コマ	・ 2 / 16 単位
授業方法	講 義 [ ○ ] ・ 演 習 [     ] ・ 実 習 [     ]	
授業の概要	介護福祉士実務者研修の中の人間と社会領域としての位置づけの科目。介護福祉の資質向上を目的とし、専門性の高い介護人材として中核的な役割を果たすうえで必要とされる知識・技術等を習得する。	
授業の到達目標	介護福祉士実務者研修の中の「人間の尊厳と自立」「社会の理解Ⅰ」「社会の理解Ⅱ」に関する課題・問題を解ける。	
成績評価方法と基準	介護福祉士実務者研修必須課題・問題の期限内の提出及び合格90%、授業態度10%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価。	
準備学習・時間外学習	授業に先立ち課題・問題に取り組む他、時間を見つけて、自ら演習に取り組む。	
使用教科書・教材・参考書	中央法規「介護福祉士実務者研修テキスト 第4巻 こころとからだのしくみ」	
授業上の注意点	提出課題の合格が必須	
	授業計画（内容）	コマ数
	1. 国際連合「障害者の権利に関する条約」と人権思想	1コマ
	2. ノーマライゼーションとリハビリテーション	1コマ
	3. ICFの特徴	1コマ
	4. 障害モデル	1コマ
	5. 障がい者制度の目的	1コマ
	6. 障害者の実態	1コマ
	7. 障害者の生活実態	1コマ
	8. 障害者をめぐる基本的な法律の概要	1コマ
	9. 障害者総合支援法とサービス体系	1コマ
	10. 障害者の福祉・介護ニーズ	1コマ
	12. 他職種連携・ネットワーキングの実際	1コマ
	13. 身体障害者への支援事例	1コマ
	14. 知的障害者への支援事例	1コマ
	15. 精神障害者への支援事例	1コマ
	合計	15コマ
	授業単位数	1

## 授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	介護職員資格講座（こころとからだのしくみ）	
担当教員の実務経験	看護経験	
対象学生	総合福祉学科 1年生	
授業時間数・単位数	30 / 240 コマ	・ 2 / 16 単位
授業方法	講 義 [ ○ ] ・ 演 習 [     ] ・ 実 習 [     ]	
授業の概要	介護福祉士実務者研修の中のこころとからだのしくみ領域としての位置づけの科目。介護福祉の資質向上を目的とし、専門性の高い介護人材として中核的な役割を果たすうえで必要とされる知識・技術等を習得する。	
授業の到達目標	介護福祉士実務者研修の中の「こころとからだのしくみ」に関する課題・問題を解ける。	
成績評価方法と基準	介護福祉士実務者研修必須課題・問題の期限内の提出及び合格90%、授業態度10%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価。	
準備学習・時間外学習	授業に先立ち課題・問題に取り組む他、時間を見つけて、自ら演習に取り組む。	
使用教科書・教材・参考書	中央法規「介護福祉士実務者研修テキスト 第4巻 こころとからだのしくみ」	
授業上の注意点	提出課題の合格が必須	
	授業計画（内容）	コマ数
	1. 老化に伴うこころとからだの変化	1コマ
	2. 老年期の発達、成熟と健康	1コマ
	3. 高齢期に多く見られる症状・疾病等	2コマ
	4. 認知症ケアの理念と視点	2コマ
	5. 認知症による生活障害、心理・行動の特徴	2コマ
	6. 認知症の人とのかかわり・支援の基本	2コマ
	7. 認知症の医学的理解と支援の実際	2コマ
	8. 障害の基礎的理解	2コマ
	9. 障害の医学的理解と支援の実際	2コマ
	10. 介護に関連するからだのしくみ 移動・移乗	1コマ
	11. 食事	1コマ
	12. 入浴・清潔保持	1コマ
	13. 排泄、整容、口腔清潔	1コマ
	14. 睡眠	1コマ
	15. 心身の構造・機能と介護における観察のポイント 移動・移乗	2コマ
	16. 食事	2コマ
	17. 入浴・清潔保持	2コマ
	18. 排泄、整容、口腔清潔	2コマ
	19. 睡眠	1コマ
	合計	30コマ
	授業単位数	2

## 授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	介護職員資格講座（介護）	
担当教員の実務経験	特別養護老人ホーム、通所介護事業所	
対象学生	総合福祉学科 1年生	
授業時間数・単位数	60 / 240 コマ ・ 4 / 16 単位	
授業方法	講 義 [ ○ ] ・ 演 習 [ ○ ] ・ 実 習 [     ]	
授業の概要	介護福祉士実務者研修の中の介護領域としての位置づけの科目。介護福祉の資質向上を目的とし、専門性の高い介護人材として中核的な役割を果たすうえで必要とされる知識・技術等を習得する。	
授業の到達目標	介護福祉士実務者研修の中の「介護」に関する課題・問題を解ける。	
成績評価方法と基準	介護福祉士実務者研修必須課題・問題の期限内の提出及び合格90%、授業態度10%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価。	
準備学習・時間外学習	授業に先立ち課題・問題に取り組む他、時間を見つけて、自ら演習に取り組む。	
使用教科書・教材・参考書	中央法規「介護福祉士実務者研修テキスト 第2巻 介護」	
授業上の注意点	提出課題の合格が必須	
授業計画（内容）		コマ数
1. 介護福祉士と尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方と展開	1コマ	
2. 介護福祉士の倫理	1コマ	
3. 介護を必要とする人の生活の理解と支援	1コマ	
4. 介護実践における連携	1コマ	
5. 介護における安全の確保とリスクマネジメント	1コマ	
6. 介護福祉士の安全	1コマ	
7. 介護におけるコミュニケーション	1コマ	
8. 介護におけるコミュニケーション技術	2コマ	
9. 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション	1コマ	
10. 介護におけるチームのコミュニケーション	5コマ	
11. 生活支援とICF	5コマ	
12. 居住環境の整備と福祉用具の活用	5コマ	
13. 移動・移乗の介護技術の基本	5コマ	
14. 食事の介護技術の基本	5コマ	
15. 入浴・清潔保持の介護技術の基本	5コマ	
16. 排泄の介護技術の基本	5コマ	
17. 着脱、整容、口腔清潔の介護技術の基本	5コマ	
18. 家事援助の基本	5コマ	
19. 終末期の介護	5コマ	
合計		60コマ
授業単位数		4

## 授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	介護職員資格講座（介護過程Ⅰ）	
実務経験	特別養護老人ホーム、通所介護事業所	
対象学生	総合福祉学科 1年生	
授業時間数・単位数	30 / 240 コマ	・ 2 / 16 単位
授業方法	講 義 [ ○ ] ・ 演 習 [     ] ・ 実 習 [     ]	
授業の概要	介護福祉士実務者研修の中の介護領域の介護過程としての位置づけの科目。介護福祉の資質向上を目的とし、専門性の高い介護人材として中核的な役割を果たすうえで必要とされる知識・技術等を習得する。	
授業の到達目標	介護福祉士実務者研修の中の「介護：介護過程」に関する課題・問題を解ける。	
成績評価方法と基準	介護福祉士実務者研修必須課題・問題の期限内の提出及び合格90%、授業態度10%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価。	
準備学習・時間外学習	授業に先立ち課題・問題に取り組む他、時間を見つけて、自ら演習に取り組む。	
使用教科書・教材・参考書	中央法規「介護福祉士実務者研修テキスト 第3巻 介護Ⅱ－介護過程－」	
授業上の注意点		
	授業計画（内容）	コマ数
	1. 介護過程の意義と目的	2コマ
	2. 介護過程の展開	4コマ
	3. 介護過程とチームアプローチ	4コマ
	4. 介護職による介護過程の進め方	4コマ
	5. 介護過程の実践的展開	4コマ
	6. 施設で暮らす高齢者の介護過程	4コマ
	7. 在宅で暮らす高齢者の介護過程	4コマ
	8. 演習課題	4コマ
	合計	30コマ
	授業単位数	2

## 授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	介護職員資格講座（介護過程Ⅱ）	
実務経験	特別養護老人ホーム、通所介護事業所	
対象学生	総合福祉学科 1年生	
授業時間数・単位数	30 / 240 コマ ・ 2 / 16 単位	
授業方法	講 義 [ ○ ] ・ 演 習 [ ○ ] ・ 実 習 [     ]	
授業の概要	介護福祉士実務者研修の中の介護領域の介護過程としての位置づけの科目。介護福祉の資質向上を目的とし、専門性の高い介護人材として中核的な役割を果たすうえで必要とされる知識・技術等を習得する。	
授業の到達目標	介護福祉士実務者研修の中の「介護：介護過程」に関する課題・問題を解ける。	
成績評価方法と基準	介護福祉士実務者研修必須課題・問題の期限内の提出及び合格90%、授業態度10%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価。	
準備学習・時間外学習	授業に先立ち課題・問題に取り組む他、時間を見つけて、自ら演習に取り組む。	
使用教科書・教材・参考書	中央法規「介護福祉士実務者研修テキスト 第3巻 介護Ⅱ－介護過程－」	
授業上の注意点	提出課題の合格が必須	
授業計画（内容）		コマ数
1. 利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開		2コマ
2. 事例1の展開		7コマ
3. 事例2の展開		7コマ
4. 事例3の展開		7コマ
5. 事例4の展開		7コマ
合計		30コマ
授業単位数		2



## 授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	介護職員資格講座（医療的ケア）	
担当教員の実務経験	看護経験	
対象学生	総合福祉学科 1年生	
授業時間数・単位数	60 / 240 コマ	・ 4 / 16 単位
授業方法	講 義 [ ○ ] ・ 演 習 [ ○ ] ・ 実 習 [     ]	
授業の概要	介護福祉士実務者研修の中の医療的ケア領域としての位置づけの科目。介護福祉の資質向上を目的とし、専門性の高い介護人材として中核的な役割を果たすうえで必要とされる知識・技術等を習得する。	
授業の到達目標	介護福祉士実務者研修の中の「医療的ケア」に関する課題・問題を解ける。実際に手順に則って「医療的ケア」演習ができる。	
成績評価方法と基準	介護福祉士実務者研修必須課題・問題の期限内の提出及び合格90%、授業態度10%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価。但し、「医療的ケア」演習が手順通りできなければ不可とする。（「喀痰吸引等研修実施要綱」（平成24年3月30日付 社援発0330第43号 厚生労働省通知）に定められた実施手順通りに実施できることとし、合格不合格にて評価する。）	
準備学習・時間外学習	授業に先立ち課題・問題に取り組む他、時間を見つけて、自ら演習に取り組む。	
使用教科書・教材・参考書	中央法規「介護福祉士実務者研修テキスト 第5巻 医療的ケア」	
授業上の注意点	提出課題の合格の他、演習「医療的ケア」を手順通りできることが取得条件	
授業計画（内容）		コマ数
1. 医療的ケア実施の基礎		1コマ
2. 医療的ケアにおける「個人の尊厳と自立」の意義		1コマ
3. 医療の倫理		1コマ
4. 利用者や家族の気持ちの理解		1コマ
5. 保健医療に関する制度		1コマ
6. 医行為に関する法律		1コマ
7. チーム医療と介護職員との連携		1コマ
8. 喀痰吸引や経管栄養の安全な実施		1コマ
9. 救急蘇生		1コマ
10. 感染予防		1コマ
11. 介護職員の感染予防		1コマ
12. 療養環境の清潔、消毒法		1コマ
13. 滅菌と消毒		1コマ
14. 身体・精神の健康		1コマ
15. 健康状態を知る項目		1コマ
16. 急変状態について		1コマ
17. 呼吸のしくみと働き		1コマ
18. いつもと違う呼吸状態		1コマ
19. 喀痰吸引とは		1コマ
20. 喀痰吸引で用いる器具・機材とそのしくみ、清潔の保持		1コマ
21. 人工呼吸器と吸引		1コマ

22. 子どもの吸引	1コマ
23. 喀痰吸引に伴うケア	1コマ
24. 吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意	1コマ
25. 呼吸器系の感染と予防	2コマ
26. 喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確保確認	2コマ
27. 急変・事故発生時の対応と事前対策	2コマ
28. 報告及び記録	1コマ
29. 喀痰吸引の実施の手順と留意点	1コマ
30. 消化器系のしくみと働き	1コマ
31. 消化器の主な症状	1コマ
32. 経管栄養とは	1コマ
33. 経管栄養で用いる器具・機材とそのしくみ、清潔の保持	1コマ
34. 注入する内容に関する知識	1コマ
35. 経管栄養実施上の留意点	1コマ
36. 子どもの経管栄養について	1コマ
38. 経管栄養に必要なケア	1コマ
39. 経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意	1コマ
40. 経管栄養に関係する感染と予防	2コマ
41. 経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認	2コマ
42. 急変・事故発生時の対応と事前対策	1コマ
43. 報告及び記録	1コマ
44. 経管栄養の実施の手順と留意点	1コマ
45. 医療的ケア実施の基礎	1コマ
46. 喀痰吸引（実施手順）	5コマ
47. 経管栄養（実施手順）	5コマ
合計	60コマ
授業単位数	4

## 授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	レクリエーション指導論（レクリエーション・インストラクター養成講習）	
実務経験	秋田県レクリエーション協会講師	
対象学生	総合福祉学科・社会福祉学科・心理福祉学科・保育児童学科 1年	
授業時間数・単位数	35 コマ	2 単位
授業方法	講 義 [ ○ ] ・ 演 習 [ ○ ] ・ 実 習 [     ]	
授業の概要	レクリエーション理論や支援法を、さまざまなレクリエーション活動を通して学ぶ。最終的にはプログラムを立案し、実践（検定）・評価を行う。	
授業の到達目標	支援者に必要な知識や演出方法を理解し、レクリエーション素材の有効的な活用方法やプログラムの組立て方、実技実践方法を習得する。	
成績評価方法と基準	出席15%、目標試験の合格80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習	体調管理を万全にしつつ受講する。	
使用教科書・教材・参考書	1クールごとに資料作成	
授業上の注意点	演習では指示に従い、安全に実施するよう心掛ける。	
授業計画（内容）		コマ数
レク概論～レクリエーションとレクリエーションインストラクター～	1	
レク理論Ⅲ～レクインストラクターの役割～	1	
レク理論Ⅱ～アイスブレイキング理論編～	1	
レク支援法Ⅰ～ホスピタリティ実技①～	1	
レク理論Ⅰ～ホスピタリティ理論編～	1	
レク支援法Ⅱ～ホスピタリティ実技②～	1	
楽しさと心の元気づくりの理論Ⅰ	1	
レク支援法Ⅶ～対象者の相互作用の活用～	1	
レク支援法Ⅴ～アクティビティ選択編～	1	
レク活動習得法Ⅰ～CSSプロセス編～	1	
レク支援Ⅵ～アクティビティ展開編～	1	
レク活動習得法Ⅷ～新聞紙編～	1	
レク活動習得法Ⅱ～タップダンス編～	1	
レク活動支援Ⅲ～高齢者編～	1	
楽しさと心の健康づくりの理論Ⅱ～地域とレク～	1	
レク支援法Ⅷ～ネイチャーゲーム編～	1	
レク活動習得法Ⅶ～レク運動の制度について～	1	
レク活動習得法Ⅲ～太極拳編～	1	
レク活動習得法Ⅳ～チャレンジ・ザ・ゲーム編～	1	
レク活動習得法Ⅵ～指導案と評価編～	1	
レクプログラム立案法Ⅰ～集団プログラム編～	1	
レクプログラム立案法Ⅱ～地域事業編～	1	
レクプログラム立案法Ⅲ～総合編～	1	
モデルプログラム体験Ⅰ～キャンプ編～	1	

モデルプログラム体験Ⅱ～クラフト編～	1
安全管理の必要性について	1
レク活動習得法Ⅴ～レクダンス～	1
レク支援法Ⅵ ～レクプログラムのアレンジ編～	1
レク支援実践法Ⅰ～元祖！ソング～	1
レク支援実践法Ⅱ～グループ指導演習①～	1
レク支援実践法Ⅲ～グループ指導演習②～	1
レク支援実践法Ⅳ～グループ指導演習③～	1
レク支援実践法Ⅴ～グループ指導演習④～	1
特別講義	1
合計	35
授業単位数	2

# 授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	認知症ケア指導管理士 I	
実務経験	介護福祉士養成施設教員	
対象学生	総合福祉学科・社会福祉学科 1 年	
授業時間数・単位数	20コマ	1 単位
授業方法	講 義 [ ○ ] ・ 演 習 [ ○ ] ・ 実 習 [     ]	
授業の概要	今後ますます増えると予想される認知症高齢者の医学的・心理的理解を深め、ケア理念や日常生活支援の基本的視点を踏まえた介護実践を理解する。	
授業の到達目標	認知症ケアの基本的知識を深める。	
成績評価方法と基準	出席15%、目標試験の合格80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	改訂版 認知症ケア指導管理士 公式テキスト他 視聴覚教材	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
認知症高齢者の現状と介護の問題		1
認知症の医学的理解 ～ 認知症の診断基準と評価スケール		1
認知症の医学的理解 ～ アルツハイマー型認知症 脳血管性認知症 レビー小体型認知症 前頭側頭型認知症 クロイツフェルト・ヤコブ病による認知症 慢性硬膜下血腫による認知症 認知症と間違われやすい状態		3
認知症の心理的理解 ～ 認知症の原因と症状（中核症状、行動・心理症状） 行動・心理症状（BPSD）の出現原因		2
認知症ケアの理念と認知症ケアの提供		1
認知症ケアの実践 ～ 認知症ケアの原則とコミュニケーションの基本		1
認知症ケアの実践プロセス		1
認知症高齢者の健康管理 緊急時の対応 症状に応じた体位		1
行動・心理症状（BPSD）への対応		1
認知症への薬物療法		1
認知症への非薬物療法		1
家族への支援		1
認知症家族について理解する（DVD）「NHK TVシンポジウム～病気を知って自分らしくその人らしく」		1
認知症家族について理解する（DVD）「NHKスペシャル～私は家族を殺した～介護殺人」		1
認知症介護について理解する（DVD）「プロフェッショナル～“あなたらしさ”はここにある」		1
認知症介護について理解する（DVD）「プロフェッショナル～認知症介護のプロ登場」		1
振り返りとまとめ		1
	合計	20
	授業単位数	1

# 授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	基礎医学	
担当教員の実務経験	看護師	
対象学生	総合福祉学科 1 年生	
授業時間数・単位数	30 コマ	・ 2 単位
授業方法	講 義 [ ○ ] ・ 演 習 [ ○ ] ・ 実 習 [     ]	
授業の概要	章ごとに働きと疾病を理解する	
授業の到達目標	実務において必要な医学知識の基礎を理解する	
成績評価方法と基準	出席15%、目標試験の合格80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	医学入門	
授業上の注意点	暗記のみに留まらずきちんと理解すること	
授業計画（内容）		コマ数
人間の身体の全体像を知る		2
第 1 章 細胞・組織について		2
第 2 章 血液・リンパ液・免疫について		2
第 3 章 循環器系の働きと疾病について		2
第 4 章 呼吸器系の働きと疾病について		2
第 5 章 骨格・筋系の働きと疾病について		2
第 6 章 消化器系の働きと疾病について		2
期末テスト・解説		2
第 7 章 泌尿器系の働きと疾病について		2
第 8 章 生殖器系の働きと疾病について		2
第 9 章 内分泌系の働きと疾病について		2
第 10 章 神経系の働きと疾病について		2
第 11 章 感覚器系の働きと疾病について		2
第 12 章 感染症について		2
期末テスト・解説		2
合計		30
授業単位数		2

## 授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	栄養学	
担当教員の実務経験	管理栄養士として事業所等での実務経験	
対象学生	総合福祉学科 1年生	
授業時間数・単位数	15 コマ	1 単位
授業方法	講 義 [ ○ ] ・ 演 習 [     ] ・ 実 習 [     ]	
授業の概要	生活構造の変化に応じて食生活も多様となるが、求められる機能と現状を理解する。	
授業の到達目標	健康な食生活に必要な知識技術の理解を進める。	
成績評価方法と基準	出席15%、レポート課題の達成度80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習	前回のプリント課題の復習	
使用教科書・教材・参考書	中村丁次監修「栄養の基本がわかる図解辞典」成美堂出版	
授業上の注意点	積極的に授業に参加し、生活課題について考察する。	
授業計画（内容）		
		コマ数
1. 健康寿命について	秋田県民の食生活指針	1コマ
2. 個々人の食事について	体格指数の計算 社会の変動と食生活 国内自給率	1コマ
3. 栄養、栄養素について	食事摂取基準について	1コマ
4. 食欲のしくみ		1コマ
5. 消化のしくみ	吸収のしくみ 排泄のしくみ	1コマ
6. バランス献立の基本型	3回食が体に良いわけ 調理について	1コマ
7. ライフサイクルと栄養	①妊娠中の栄養と食事・乳幼児の栄養と食事	1コマ
8.                    "	②小学生の栄養と食事・中高校生の栄養と食事	1コマ
9.                    "	③成人の栄養と食事・高齢者の栄養と食事	1コマ
10. 食物アレルギーについて		1コマ
11. 食品表示、食中毒、食の安全について		
12. 症状別栄養	① 肥満、糖尿病、がん、動脈硬化 他	1コマ
13. 症状別栄養	② 脂質異常症、高血圧、脳卒中、心疾患 他	1コマ
14. 症状別栄養	③ 肝機能低下、消化器系・腎機能低下 他	1コマ
15. 災害時の食対応について	まとめ	1コマ
	合計	15コマ
	授業単位数	1

## 授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	ボランティア論	
対象学生	総合福祉学科1年生	
授業時間数・単位数	15 コマ ・ 1 単位	
授業方法	講 義 [ ○ ] ・ 演 習 [ ○ ] ・ 実 習 [   ]	
授業の概要	阪神淡路大震災以来、ボランティアに対する価値観が多様化する中、自らが積極的にボランティアをする意義等を見出し、社会福祉施設等でのボランティアを実際に体験する。	
授業の到達目標	体験を通じたボランティアに対する考え方をまとめられる。	
成績評価方法と基準	出席15%、レポート課題の達成度80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習	体調管理をしっかりとし、ボランティア体験等に参加できるようにする。	
使用教科書・教材・参考書	授業内で配布されるコピー等を利用	
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
1. 市民レベルでの社会福祉の動向		1 コマ
2. 社会福祉の歴史		1 コマ
3. ボランティアの種類・動向		1 コマ
4. ボランティアが求められる役割		2 コマ
5. 福祉職員の研修内容—ボランティアへの接し方のスーパービジョン—		1 コマ
6. ボランティア準備		2 コマ
7. ボランティア体験		6 コマ
8. まとめ・礼状の書き方		1 コマ
	合計	15コマ
	授業単位数	1



## 授 業 概 要

秋田社会福祉専門学校

科目名	スポーツ指導論 I	
担当教員の実務経験	通所介護事業所勤務介護員経験	
対象学生	総合福祉学科 1年生	
授業時間数・単位数	60 コマ	4 単位
授業方法	講 義 [ ○ ] ・ 演 習 [ ○ ] ・ 実 習 [     ]	
授業の概要	介護・介護予防としてデイケア、デイサービス、介護老人保健施設、フィットネスジムなど幅広く使用されるレッドコードのトレーニング方法とその理論を理解できる。	
授業の到達目標	安全にレッドコードの使用ができ、その理論を理解できる。また、スポーツリーダーとしての理論を理解できる。	
成績評価方法と基準	出席15%、安全に演習への指示ができる80%、授業態度5%を、学則に定める成績評価の基準に従い評価	
準備学習・時間外学習	体調管理を万全にしつつ受講する。	
使用教科書・教材・参考書	宮下智「レッドコード・グループエクササイズ」三輪書店 NHK学園「スポーツリーダー養成講座」	
授業上の注意点	演習では指示に従い、安全に実施するよう心掛ける。	
授業計画（内容）		コマ数
1. 高齢期の現状（身体的、精神的、社会的特徴）	1コマ	
2. 高齢期のトレーニングの留意・注意点	1コマ	
3. レッドコード・エクササイズとは	1コマ	
4. レッドコードトレーナー®の仕組み・使用方法	1コマ	
5. レッドコード・エクササイズ前の準備	1コマ	
6. 基本的な名称・仕組みの理解	1コマ	
7. 臥位でのエクササイズ	5コマ	
8. 体幹を強化するためのエクササイズ	5コマ	
9. 座位でのエクササイズ	10コマ	
10. 立位でのエクササイズ	5コマ	
12. 固定筋と動作筋	1コマ	
13. 各障害へのアプローチ（排泄、摂食、睡眠、その他）	4コマ	
14. 介護場面で実際に行われているエクササイズ	1コマ	
15. 座位でのグループエクササイズ	2コマ	
16. 立位でのグループエクササイズ	2コマ	
17. 健康増進グループエクササイズ	1コマ	
18. スポーツリーダー（指導者の役割 I）	1コマ	
19. 文化としてのスポーツ	1コマ	
20. トレーニング論 I	1コマ	
21. スポーツ指導者に必要な知識 I	1コマ	
22. スポーツと栄養	1コマ	
23. 指導計画と安全管理	2コマ	
24. 各期におけるスポーツ	2コマ	

